

2024年5月14日

各位

会社名 株式会社エクサウィザーズ
代表者名 代表取締役社長 春田 真
(コード番号：4259 東証グロース)
問合せ先 コーポレート統括部長 前川 智明
(Tel: 03-6626-3602)

連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）の連結業績につきまして、前期実績値（2022年4月1日～2023年3月31日）との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2024年3月期連結業績の前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前期実績値 (A) (2023年3月期)	百万円 5,591	百万円 △378	百万円 △375	百万円 △141
当期実績値 (B) (2024年3月期)	8,384	△305	△330	△610
増減額 (B - A)	2,793	72	45	△469
増減率 (%)	50.0%	—	—	—

2. 差異の理由

売上高は、2024年3月期において子会社化した株式会社スタジアムの業績の取り込みを開始したこと、AIプロダクト事業及びAIプラットフォーム事業において、当社サービスの利用数が増加し、増収となりました。

営業利益は、売上原価となる人件費等、システム利用料及びソフトウェアの減価償却費が増加し、販管費となる人件費等、システム利用料及び減価償却費が増加しました。

経常利益は、営業利益までの差異に加え、営業外収益を5百万円、営業外費用を30百万円計上しました。

特別利益として株式会社スタジアムの一部事業の譲渡により70百万円を計上しました。特別損失としてAIプラットフォーム事業及びAIプロダクト事業のソフトウェア資産等に係る減損損失を382百万円、関係会社整理損を52百

万円計上しました。

上記に加え、税効果会計の適用において将来減算一時差異等に対して追加的に繰延税金資産を計上したため、法人税等の合計として 59 百万円をマイナスに計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失が前期実績値に対し増加しました。

以 上